

平成26年度第1回まちづくり活動支援交付金審査委員会議事録(概要)

事務局

お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたのでただ今から、平成26年度、第1回米子市まちづくり活動支援交付金審査委員会を開会いたします。最初に委嘱状の交付式を行います。名簿の順番に交付いたしますのでその場でお立ちになり、市長からお受け取りください。

各審査委員へ委嘱状交付

事務局

今日の会議ですけど、委員定数8名のうち7名の審査委員が出席されていますので、米子市まちづくり活動支援交付金交付要綱第16条第3項の規定により、本会が成立することをご報告します。それでは、ただいまから、平成26年度第1回米子市まちづくり活動支援交付金審査委員会を開会します。今回審査会のメンバーも新しくなりましたので、自己紹介をお願いします。

名簿順に各審査委員自己紹介

事務局自己紹介

審査委員会委員長選出

委員長を星野委員に決定する。

職務代理選出

職務代理を遠藤委員に決定する。

事務局

本日の日程ですが、平成25年度に交付金を受けられた団体から事業の報告を、1団体あたり5分程度していただきます。それから団体と委員さんとの意見交換を3時30分まで行ないたいと思います。意見交換会が終わりましたら、10分間休憩をはさみまして、平成26年度の事業計画についてご協議をお願いしたいと思います。そういたしますと、これからの進行の方を委員長にお願いします。

委員長(議長)

そういたしますと報告会に進みたいと思います。

三本松二区明日へつなぐ会

子供たちと高齢者の交流事業について報告。(資料参照)

ザ・スピリッツ

第6回ジョイントコンサート in ふれあいの里について報告。(資料参照)

親和会

ふる里創生事業について報告。(資料参照)

多胎児サークルにこにこ club

ふたごパパの育児体験記冊子作成について報告。(資料参照)

尚徳和みのロード運営委員会

法勝寺電車和みのロード事業について報告。(資料参照)

米子いただきがいな隊

食のみやこ ご当地グルメフェスタIN米子について報告。(資料参照)

旧加茂川・寺町周辺のまちづくりを進める会

加茂川にかかる橋をテーマとする写真コンテスト事業について報告。(資料参照)

就将の宝、散策の会

花と緑と民謡の里づくり事業について報告。(資料参照)

委員長(議長)

すべての実施団体の報告が終わりました。全体を通してご意見、ご質問などありましたらお願いします。

事業実施団体

行者山のことを参考にして来年もがんばっていきたいと思います。それと今日の会に参加して思い付いたのですが、観音寺の子供たちの写真を公民館に飾ろうという事業も考えていきたくと思いました。

事業実施団体

今回、親和会さんもこのような道を作られて、親和会さんとは横の繋がりができたらと思います。写真も、もっといいカメラで撮影していただけたらもっといい写真が掲載できたと思います。もっと横の繋がりが出来、いろいろな団体とコラボ出来たら良いなと思います。

委員

加茂川の写真のお話で、下町ガイドさんとのタイアップということがありましたが、県外から来られるお客さんはけっこうカメラをもってこられますので、河童の像のところとかで写真をとって後日応募してもらおうとか、ということをされたら、もっと広がりが出来ると思います。

事業実施団体

米子市の他、境港、日野、南部、伯太、安来、大山町からも応募されています。

委員

出展数は100くらいあると思いますが、1人で複数応募されていますよね。観光客の皆さんとか、広く募集されると、もっと幅広い方からの写真が集まると思います。

事業実施団体

今回は夏から秋にかけての作品集を作成しました。次回は冬から春にかけての作品集を作成し、米子の1年間を通しての美しさをアピールしたいと考えています。

事業実施団体

昨年、旧加茂川、寺町散策を県外から来た友人に案内しました。城山にも登りたいへん喜んでくれました。加茂川、中海遊覧の時は駐車場が6台分あったのですが、その後はどこかの有料を探しました。もっと人を呼ぶのであれば、身近なところに駐車場が必要だと思います。

委員長(議長)

時間が限られていて、聞いてみたいことがたくさんあると思いますが、時間が参りましたので以上で情報交換会を終わりたいと思います。

発表されました団体の方はお疲れ様でした。お気を付けてお帰りください。

それでは、次に日程の6、平成22年度事業実施団体事後調査報告について事務局の方からお願いします。

事務局

平成22年度事業実施団体事後調査報告について説明する。

委員長(議長)

何かご質問がありますか。

委員

戸上地区は今日の報告のありました親和会さんとは同じ地区になるのですか。同じであるならばもっと連携がとれればいいのにはと思います。

委員

残念ながら山陰saccaさんが活動を辞めておられますが、プレゼンの時は熱意をもってされていた記憶がありますが、終わってしまっていることが残念です。一回きりで終わるのはどうかと思いますが、何かしらこちらからでも、「もう一度されませんか」というような話にはならないのでしょうか。

事務局

計画の段階では、継続していきたいと記載されていますが、その通りに出来る団体もあれば、次年以降、資金がなくて出来ないということもあります。

委員

少しビジネスライフ的なところもあり、まちづくりのコンセプトとは少し合わないなと思っていました。

委員

当時の野島委員さんが皆さんプロなのになぜこの交付金を使って事業をされるのかという質問をされて、私も別の角度から同じような内容の質問をして、その説明からわからなくもないかなということもあったのですが、これが1回限りで終わっているという事になると、次回から同じような団体が申請された場合は色眼鏡で見えてしまうかもしれませんね。

委員

やはり1回限りというのは、この交付金事業の趣旨に反すると思います。昨年のグルメフェスタにしても1回で終わることがないようにしていただきたい。交付金がなくても出店料をあげても継続して欲しいですね。

事務局

もともといただきがいな隊で活動されている団体が、全国発信するための1つの起爆剤としてがいな祭りの中でされてということで、継続されるとは思っています。

委員長(議長)

現実には出店料を1万円から2万円にすることは難しいと思います。1万円増やして原資を出すこ

ともですが、1万円売り上げを出すということは、結構大変なことだと思います。

委員

先ほど事業報告でも、この事業が終わり4月以降も続けたいのにお金がないという話しが出ていましたが、それを今言われてもこの事業に交付金は出せませんよね。交付金を出す段階でこの交付金が無くなった後のことをどう考えているのか、一緒に考えてあげなくては、いけないのかなと思います。実施される団体は、今のことで一生懸命で今後の事までは、なかなか考える余裕がないと思います。

委員

昨年審査の時、次年度以降自主財源のない団体には、どうされますかと聞いたのですが、その時は寄付とかを募っていきますという回答だったと思いますが、結局寄付とかは継続していく上では弱いのです。やはり自主財源と言いますか、もう少し強いものがないと、いつまでも寄付に頼ると、そこから抜け出せなくなり、尻すぼみになると思います。

委員

一寸思いましたのが、今までは収入のところでは自己資金をいくらもっているかも審査していたと思います。今回は自己資金が0とか、0に近い団体もあり、今までは続けるためにどうするのか審査していたと思いますが。

委員

自己資金が0の団体ではなくて、自己資金を出すか、出さないかということです。自己資金が0だからといって団体として資金がないということではありません。

過去には、自己資金を潤沢にもっている団体になぜ自己資金を出さないのかという質問もしています。

事務局

この交付金事業では団体の行っている1つの事業にだけ焦点を当てていますので、自己資金で別の事業をされていてもここには出てきません。

委員長（議長）

それでは時間のこともありますので、日程の7の平成26年度事業についてへ入りたいと思います。

事務局

議事1 議事2の(1)(2)について説明

継続活動コースの拡大・充実について、このような評価方法でよいか、ご審議願いたい。

委員

とても抽象的ですね。

事務局

確かにとても抽象的です。これを具体的にするのは想像が付きません。今までやってこられた事業の経過は申請の時に記載してもらいますが、あとはプレゼンの時に説明いただいて委員の皆様からも、ご質問していただけたらと思っています。

委員

継続というのはとってもいいと思いますが、それが充実、発展しているかという判断ができるのか、どうなのか。何をもちて判断すればいいのか？

委員長(議長)

私が以前交付金をいただいた事業で、エリア拡大のため日野川流域へのチラシ等の配布、今、自治会となかなか一緒に出来ないのですが、一緒にするような試みをしていくことで、発展しているといえるのか。

委員

新しいコースが出来ることは大変よい事だと思います。先ほど例えば対象者の増加も拡大、充実に含めるとするならば、1回交付金を受けて、その後も続けているのだけれども、自己資金の問題で、だんだん参加人数も減ってきている。継続はしているけど減ってきている。もう一度これをもって、延ばしましょうと言った時に、おそらく一時的には延びますよね。上限の10万円のお金をもらって、事業を行えばおそらく延びると思います。そういう延ばし方を充実、発展とってしまおうと、また交付金が入らなくなると下降してしまう。そういうことが見越せるのですが、それは頭の片隅に置いて、この一瞬で判断して充実としていると思えば、ここにチェックを記入しますし。

委員

発表の方がプレゼンをする時に、細かく充実、発展を定義つけて数値化して評価することは無理だと思います。やはり交付金を出す以上、何も無い訳にはいかないんで充実、発展をしているものという定義により、それぞれの委員がそうなっているかを、申請書やプレゼンから判断するしかないと思います。人数が増えるとかそういう数値的なことよりも、全体から委員が感じた発展、充実で判断すればいいと思います。

委員長(議長)

実際のところハートの問題だと思います。やはり続けることは、それなりの熱い思いがあると思いますので。やはり資料の方にも書いてありますとおり、このように考えられると委員が判断できるものにチェックを記入するといいうことで、いかがでしょうか。

委員

やはりその一瞬で判断すればいいですよ。財務関係がしっかりしていると言っても実際にその段階の財務内容を見た訳ではないので、本当のところはわかりませんよね。

委員

プレゼンの上手、下手で決まることになるので、見に行くという話になると思います。

事務局

ただ事業をいつもやっている訳でもないです。

委員

今まで通り、これまでの評価と同じようにということでもいいですよ。

委員長(議長)

評価はこれまでのものと一緒なんですけど、最初の充実、発展させるという項目も同じように、そうだと思って判断していただくということで。

委員

3年間は交付金をもらえない期間があるということですが、次年度からもらえるようにしてもいいと思います。

事務局

3年間は期間が長いでしょうか。同じ事業であれば最初に1回、新コースで1回で今は終わりですが、今後の状況によっては改正もあるかもしれません。

委員

継続してもらいたいという意見もあるので翌年よりは、より長く継続されている団体を優先すべきだと思います。

事務局

そこまですると評価が非常に難しくなると思います。年数を優先するのか、事業の内容を優先するのか。あまり複雑にしない方がいいと思います。

委員長(議長)

この事業は継続を前提に審査していますので、やはり3年継続して4年目でという事務局の案で行うということでしょうか。

事務局

26年度はこれで行わせていただきます。

次に今後のスケジュール、プレゼンテーションについて説明を行う。

委員長(議長)

今の説明について何か、質問がありますか。

委員長(議長)

ないようですので、以上で第1回審査委員会を終わりたいと思います。大変お疲れ様でした、ありがとうございました。